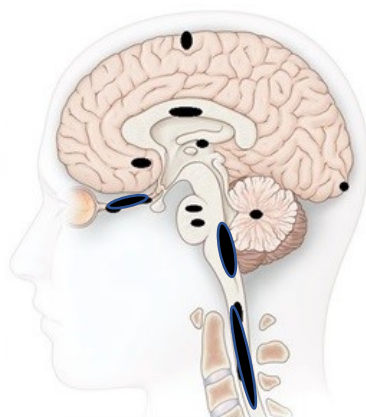


視神経脊髄炎(NMO)スペクトラム障害

原因

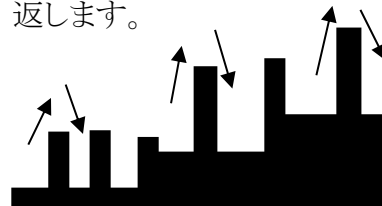
- 抗 AQP-4 抗体*が脳血管と神経細胞の橋渡しをするアストロサイトに炎症をおこす疾患です。
- 病変が脳・脊髄・視神経のあちこちに多発するので(右図の黒丸)、様々な症状が出現します。

*抗 AQP-4 抗体:アストロサイトの表面にあるアクアポリン AQP-4 に炎症を起こさせるたんぱく質。



イラストは「ぜんぶわかる脳の事典 (2012)」より転載・改変

- 若い女性に多いです。
- 全身性エリテマトーデスやシェーグレン症候群の合併率が高い。
- 症状は悪化と改善を繰り返します。



症状

- 視神経炎の症状:視力低下、失明、水平性半盲(視野の上か下半分が見えなくなる)。
- 脊髄炎の症状:
 - 手足の麻痺やしびれ
 - 排尿障害、便秘
- 脳症候群の症状:意識障害、言語障害、ふらつき、眠気、しゃっくり、吐き気など

似たような症状をおこす病気

- 多発性硬化症と違って脊髄 MRI で 5cm 以上の長い病変が出現します。
- 多発性硬化症と違って血液検査で抗 AQP-4 抗体が陽性です。

治療法

- 病状が悪化したときは、ステロイドパルス療法や血液浄化療法(血漿交換など)を行います。
- 病状が安定したあとは再発予防の治療をします。合併しやすくなるので慎重に選択します。
 - 内服薬:副腎皮質ステロイド、タクロリムス、アザチオプリン
 - 注射薬:エクリズマブ、サトラリズマブ、イネビリズマブ、リツキシマブ、トシリズマブ
 - その他:免疫グロブリン静注療法や血液浄化療法を定期的にも実施することもあります。
- 痛みやしびれやつっぱりや排尿困難があれば、それに応じたお薬やリハビリを処方します。

さいごにひとこと

- 再発予防の免疫修飾薬は高額なものが多くので指定難病を申請することをお勧めします。
- 副腎皮質ステロイドを長期間使用することが多いので、副反応(血糖上昇、血圧上昇、肥満、骨粗鬆症、胃潰瘍、感染症)の対策(定期的な運動や胃酸を抑える薬の内服)も必要です。

みやさきクリニック 宮崎秀健